

令和6年度（第63回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

●有限会社こんばら ゆうげんがいしゃ [愛媛県今治市大西町] えひめけんいまばりしおおにしちょう（代表取締役社長 かん 菅 けいし 恵志）

（1）むらづくりの背景・動機

大西町紺原地区は、今治市西部に位置し、1980年代に大手造船会社が進出したことから、勤めに出る農家の後継者が増え、集落世帯数916戸のうち、農家戸数は43戸（内、法人参加戸数23戸）で非農家が9割以上を占める地区になっている。更に生産者の高齢化で労働力不足が深刻となる中、“集落内に耕作放棄地を出したくない”との思いから、平成16年に農業生産法人「有限会社こんばら」を23人で設立し、小規模農地と宅地が混在する地域において、特定農業法人として集落の農地を保全管理するとともに、地域住民が広く参加する集落づくり活動に取り組んでいる。

（2）むらづくりの内容

① 地元企業等との関係強化による効率的な営農活動

耐暑性品種「ひめの凜」への転換や収量コンバインによる品質判定など、安心で食味の良い米や野菜は地元でも高い支持を受けており、特に生産した米は、造船会社の社員食堂を中心に、集落内に居住する社員個人や飲食店、介護施設等にはほぼ全量を直接、地元で販売することが可能になっている。

また、当法人の活動に賛同する地元企業経営者等の協力により、集落内の遊休施設を法人の集荷場、機械倉庫、事務所として安価で借り受けるとともに、機械類についても安価に修繕することが可能になっているほか、近隣の企業や農業者から使わなくなったパレット、キャリー等を調達するなどして、大幅なコスト低減やSDGsの達成にも寄与し、安定した収益性を確保している。

さらに、作業負担軽減のために高性能機械を積極的に導入し、若手職員を積極的に雇用するなど、次世代への経営継承や人材育成にも取り組んでおり、現在若手職員が中心となってSNSによる農産物の情報発信や販路開拓等に取り組んでいる。

② 広く地域住民に受け入れられた都市型の集落コミュニティの形成

騒音対策としてトラクターなどの農業機械の使用時間を制限するなど、地域住民に配慮した営農活動に取り組むとともに集落環境の保全活動に取り組んでいる。

また、20年前から非農家でも家族で参加できる芋炊きや餅つき大会、門松づくり等の各種イベント等を開催し、積極的に地域住民との交流を図るとともに、園児や生徒を対象に水稻やサツマイモの作付け、収穫体験会を開催するほか、職場体験学習等を受入れ、次世代に集落や農業の魅力を伝えている。

このような取り組みから非農家が大半を占め、農地と住宅地が混在する地域でも法人が取り組む活動が広く住民から支持されており、農繁期やイベント開催時には非農家の子弟までが自ら進んで各種作業を担うなど、地域において農業を核とした集落コミュニティが維持、形成されている。